

■離島へ転校したらホストファミリーがドスケベで困る ボイスドラマ 環編

//タイトルコール

環「離島へ転校したらホストファミリーがドスケベで困る ボイスドラマ 環編」

//牛の鳴き声「モオ～……」

環「恵くん、お疲れさま。一休みしましょう」

環「本当に助かったわ。この牧場、人手が足りないってこの時期いつもぼやいてたから……ふふ、男の子がいてくれると、こういうとき助かるわ」

環「……ふふ、こういうとき、ね……」

環「隠さないの。バレてるのよ。さっきからずっとわたしのココ、見てたでしょ？」

環「やっぱりそうなのね。もうっ、牛さんのと比較するなんて失礼すぎよ」

環「なーんて、驚いた？ うふふ、怒ってないわよ。ただ、島の人の前では、ちょっと遠慮してね」

環「……でも、島の人がいなかったときは……ね？ ほら……恵くんったら、こんなに硬くして……」

環「こっち来て……そう、ここなら外から見えないから……ん、ああ、恵くん上手……」

環「あ……はあ、はあ……んふう……ま、待って、いまシャツ脱いじゃうから……」

//ここからシャツ越しの声

環「ひあっ！？ だ、だめっ！ 腋の下なんて、舐めちゃ……！ んふうっ、あ、あ

あん！」

環「ダメよ、そこ、汗かいてるから……ひああん！ あ、味……？ わたしの味がするって……もう、恥ずかしいから、そんなこと言わないで……」

環「んんんっ！ 音たてないのっ、やだっ、そんな音させないでっ！ くすぐった、あん、くすぐったいから……ふあああん！」

//ここまでシャツ越しの声

//服脱ぐ音「バサッ」

環「はああ……もう、意地悪。この人に聞かれちゃうじゃない……んあっ、っ……や、ま、待って、いまブラを外すから……」

環「はあ、はあ……さあ、いいわよ。さわって………なあに、ジロジロ見て。その………そんなに见られると恥ずかしいわ。もう若くないんだから……」

環「え？ もう、そんなこと言って。でもうれしいわ。若い男の子にそう言ってもらえると………そう、さわって……恵くんの手で、いっぱい……」

環「ふう、はあっ……んああん！ ダメよ、そんなにきつく揉んじゃ……んあっ、ああん！」

環「あ、あ、ああっ……もう、力入れすぎよ？ 乳搾りのクセが抜けてないんじゃない？」

環「女のひとのおっぱいはね、こうやってやさしく捏ねるように………そうよ、その調子。ふふ、上手ね……」

環「見て。恵くんの指、おっぱいの中に埋もれてる………そう、そうやってふにふにっ指を動かして………ああ、素敵、おっぱいがとけそう……」

環「続けて。おっぱいがとけちゃうまで………ずっと………はあ、はあ……」

環「ああ、とけちゃう……恵くんの指でおっぱいとかされちゃう………そうよ、もっと、もっと動かして………ああ、恵くんにおっぱいトロトロにされて、わたしい……っ」

環「っ！ いま、みたいに……先っぽをくすぐられると、気持ちよくって……ああん！」

環「んんっ、そうそこっ、さきっぽ、乳首っ、あ、そんなふうに触れたらっ、くふうっ」

環「声っ、出ちゃう……ああん、声が出ちゃう……んあむ、んん……ふっ、ふううっ！」

環「ふう、ふう……ふうう……もう、意地悪なんだから……そうよ、そこ。ふふ、硬くなってるでしょ？ 恵くんのココと一緒に♪ 女のひともね、興奮するところなの」

環「きゃっ！？ もう、びっくりするじゃない……急にしゃぶりついたりして」

環「ふふふ、こんなに夢中でしゃぶって……なんだか赤ちゃんみたい……」

環「そんなにおっぱいがいいの？ わたしのおっぱいが欲しいの？ ん？」

環「ほら、横になって、それから頭をわたしの膝の上に載せて……はあい、オトナ赤ちゃんのできあがり♪」

環「あんっ、もう、そんなに強く吸って……おっぱいなんて出ないのよ……んっ、はあん♪」

環「あ、舌でレロレロってされると……んんっ、乳首、どんどん硬くなっちゃう……」

環「あはっ♪ 恵くんのおちんちんも硬くなってる……ほら、こんなに……」

環「ああ、おっきくて、硬くて……本当にたくましいわ……若い子ってすごい……」

環「あっ、いまビクンって動いたわ……ふふ、私の手が気持ちよかったの？ じゃあもっと、ほ～ら」

環「こうしてぎゅって握ると……ふふ、脈打ってるのがわかるわ。おちんちんの中で、血液がドクンドクンって」

環「んあっ！ もう、またきつく吸って……いいわ、じゃあこっちも……ほおら、シ

ユツシュツ♪」

環「あはっ、またビクビクって跳ねた♪ こんなに強く握ってるのに……男の子ってすごい」

環「上下にシュツシュツ、お手々でシュツシュツ♪ あん、このくびれたところでひっかかっちゃう」

環「ん？ なあに？ ここがイイの？ この……くびれたところを、シュツシュツされるのがいいの？」

環「それとも、こういうふう……ギュウッてされるのがいい？ ふふ、どっちもいいみたいね。おちんちんが大喜びして跳ね回ってる」

環「ん……そうよ、おっぱいチュウチュウして。そう……あん、舌先で……そこ、いっぱいねぶって……ふああ」

環「ち、乳首っ、恵くんの口の中でどんどん膨らんでる……やだ、恥ずかしい形になっちゃう……」

環「ああ、もう片方のおっぱいまでグニグニって……はああ、恵くんの手で形、変えられてる……」

環「もう、負けないんだから……ほおら、おちんちんシュツシュツ、くびれたところをシュツシュツ♪」

環「うふふ、夢中でおっぱいしゃぶっちゃって……恵くん、可愛い……♪」

環「オトナ赤ちゃんの恵くん♪ こんなに立派なおちんちん持ってるくせに、甘えん坊さんなのね♪」

環「はあ……おちんちん熱い……お手々の中でどんどん熱くなって……ヤケドしそう……あ、またビクンって」

環「はあん、いけないで、ほらこっち……もう、暴れん坊なんだから……いい子いい子しましょうね～♪」

環「んんっ、あっ、恵くんってば……そんなに必死になって……ダメよ、出ないの、おっぱい出ないから……強くしないの」

環「んんうっ！ こ、こらっ、ダメよ、両手で搾るみたいに……くううっ、これじゃホントに牛さんの乳搾りみた……あううっ！」

環「こら、悪い子ね……それじゃあこっちも……んぎゅうって……！」

環「はあ、はあ……ガマン比べしてるつもりなの……？ もうっ、本気出しちゃうわよ？」

環「もうこんなに先走りの涙を流してる、泣き虫おちんちんのクセに……えいっ、えいっ……ふふ、ビクビクして泣いてる……このままじゃ、んっ、わたしに負けちゃうわよ？」

環「っ！？ ま、待って……いま話し声が聞こえなかった？」

環「……観光にきたお客さんだわ。け、恵くんいったん離れて……んあううっ！」

環「恵くん！？ んう、強く、しないで……ああん、人が、人が来てるの……！」

環「あん、抱きつかないの……！ 早くしないと、ああん、見られる、見られちゃう……！」

環「え？ 満足したら離れる……？ な、なにを言ってるの？ もうそこまで来てるのよ！？」

環「ああ、どうしよう……も、もう、恵くんの意地悪っ！ は、早く出して……ん、んんっ」

環「おちんちん、硬い……さっきよりもずっと硬くて熱くなってる……どうして……？」

環「興奮、してるの？ 誰かに見られるかもしれないから……興奮しちゃってるの？」

環「本当にしょうのない子なんだから……ああ、すごい、どんどんたくましくなってる……手におさまりきらない……！」

環「んっ、んっ、んんっ、早く、早く出して……ああ、お願い……」

環「ひんっ！？ ま、またキツく吸ってえっ！ ダメなの、声が出ちゃうから……！」

環「あふうっ！ く、くううっ！ んううっ！ はや、くう……おねが、いい……！」

環「ああ、もうそこまで来てる、来てるわ……バレちゃう、こんなことしてるの、見られちゃうっ！」

環「ダメっ、ダメダメダメえッ！！ あ、あうううううっ！」

//絶頂&射精1「びゅ————っ」

環「あ、熱いのが手に……！ ああ、恵くんのがこんなに……ああん、まだ出てるっ、まだどんどん出てるっ！」

環「熱いつ、恵くんの熱いので、手がヤケドしちゃう……！」

環「はあ、はあ……あ……あれ？ 人は……？」

環「……行っちゃったみたい……はあ……よかった、本当によかった……」

環「恵くんったらやりすぎよ、もう。わたし、怖くて死んじやいそうだったわ……」

環「さ、スッキリしたでしょ？ そろそろ仕事に戻しましょう」

環「え？ 恵……くん？ ああんっ」

//押し倒される音「ドサッ」

環「も、もうっ、本当にエッチなんだから……♪ また人が来たらどうするの？」

環「満足したかって……？ わ、わたしは……その……恵くんが、したいならそれで

……」

環「う、ううん。私は……私はしたい……♪ 誰かに見られてもいいっ、恵く……恵としたいっ♪」

環「お願い、恵も名前と呼んで……ああん、環って呼んでっ♪」

環「はあん、がつつかないの。あ、あはあ……恵のがまた……おっきくなってる……すごい……」

環「い、入れてっ、はやくわたしのナカにつ……ねえ、ねえっ！」

環「え？ こ、この姿勢で……？ はあ、はあ……これじゃわたしたち、本当に動物みたい……♪」

環「いいわよ。後ろから来て♪ 恵のぶっとくてカリ高のおちんちんで、わたしのナカをかき回して♪」

環「あ、当たって、る……恵のが……あんなに太くて硬いのが……あっ、そこ、そこっ、そのままいれ……あ、あふうっ！」

環「あ、あ、あああああああん♪ きたあっ！ 恵のすごい、入っちゃった……！」

環「ま、待って！ まだ準備できてないの、いま、力を抜くから……え？ もう準備できてる？」

環「濡らしてる？ お漏らししたみたい……って、やっ、恥ずかしいこと言わないでっ！」

環「こ、これは……恵のを擦ってるうちに……それにつ、恵がおっぱいをあんなに吸うから……」

環「ふああっ♪ ずるっ、いい……いきなりそんな深く……っ！ ああん、広げられちゃうっ、恵の太いので……わたしの入り口っ♪」

環「はあ、はあ……キツイ？ わたしのナカが？ あは、恵ったらお世辞なんか言っ

てもダメよお……んあ、恵のがっ、どんどんナカに来るう♪」

環「動いちゃう、あんっ、腰が勝手に……動いちゃうっ♪ 恵のが欲しくて……ああ、腰がエッチに動いちゃうの……♪」

環「あ、あ、あっ、パンパンいってるっ！ 音っ、恵のがわたしのお尻にぶつかって……パンパンっていってるっ！」

環「もっと、恵、もっと！ あ、あううっ、あ——っ！！」

//射精弱（？）「ぴゅ…」

環「すごっ……いま、あつついのが、ナカで……ああん……！」

環「はあ、はあ……少し出しちゃったのね。ふふふ、せっかちさんなんだから」

環「あん、大丈夫よ。そんなしょげないで。若いんだから仕方ないわ。それに……ふふ、まだ私の中でギンギンになってるじゃない」

環「これだけ元気があれば大丈夫よ。恵だって、まだまだ物足りないでしょ？ 少なくとも、おちんちんはそう言ってるわよ」

環「あうん！ もうっ、すぐがつつくんだから……恵ってば動物そのもの……あ、あんっ、またっ、お尻にぶつかってる……っ！」

環「え？ 耳を澄ませって？ ……やあっ、聞かせないでっ！ グチュグチュって……そんな音させないでえっ！」

環「ああん、そこっ、入り口あたりで擦られると、エッチな音が出ちゃう！ ああん、だから奥っ、奥までえ、ズンズンって奥まで来てえっ！」

環「ん、くうっ！ ほらお尻、高く掲げるから……これで入れやすく……なったでしょ？ ああ、恥ずかしい……こんなカッコ……」

環「ああ、揺れちゃう、身体が揺れちゃうっ！ ズンズンって恵が奥まで来るたびに、身体が揺れて……ああ」

環「くひっ、ひっ、ひううっ……！ け、恵、少しゆっくり……」

環「だ、だって……あんっ、恵が突いてくるたびっ、か、身体、動いてえっ……！」

環「んん……お、おっぱいが……あんっ、乳首がっ、地面に擦れちゃうのっ！ これ、すごいっ♪」

環「パンッ、パンッてなるたびに、おっぱいがたぶんたぶん揺れてっ……はあん！ 乳首ズリッ、ズリッてなるう……♪」

環「おまんことおっぱい、一緒に責められるとっ！ ああん、頭真っ白になるっ、なにもかもわからなくなっちゃうっ！」

環「ああ、すごい……ここ、外なのに……こんなことしちゃいけないのに……」

環「でもそう思えば思うほど……ああっ、ダメになるっ、わたしも動物みたいになっちゃうっ！！」

環「お願い恵っ！ ガツガツ責めてっ！ 動物みたいに、ケモノみたいにわたしを犯してえっ♪」

環「んんっ！！ 奥まで来たっ♪ 恵のおちんちんが、赤ちゃんの部屋の入り口をノックしてるうっ♪」

環「あの子たちの産まれた部屋っ、ああ、わたしの一番深いところを……恵が開いちゃうっ、恵のおちんちんが入ってきちゃううううっ！！」

環「お願い恵っ！ そこ、そこなのっ！ そこで一緒に……一緒にイッてえっ♪」

環「平気っ、大丈夫っ、今日は安全日、だからっ、いっぱい出してっ、恵のでわたしのナカを満たしてっ！」

環「ん……あああっ、恵のが膨らんでるっ！ 爆発しようとしてるの、わかるうううっ！！」

環「あっ、あっ、ふああああっ！！ イクっ、恵の熱いのでイクっ！ イっちゃうう
ううううううっ！！」

//絶頂&射精1「びゅ————っ」

環「す、すご、い……恵の、奥まで届いてる……あ、ああん、わかるううう……」

環「恵ので、赤ちゃんの部屋がいっぱいになってる……あ、い、行かないで……もう
少し……んっ、最後まで出してっ」

//射精2「ぴゅるっ　ぴゅるっ　ぴゅるっ」

環「ん、んっ、んんんっ……はあ、はあ……すごい……まだこんなに出るなんて……」

//射精3「ぴゅ…　ぴゅ…」

環「ふわあああ……ああん、身体中が恵ので真っ白にされちゃったみたい……幸せ…
…♪」

//遠くで牛の鳴き声「モ～……」（時間経過表現）

環「あら、どうしましょう。もうこんな時間」

環「と、とにかく恵……くんは、服を着て。わたしが先に戻るから、時間を置いてか
ら戻ってきてね？」

環「え？　匂い？　わ、わたし恵くんのアレの匂いがしてる？　やだっ、早く言って
ちょうだい！」

環「香水をつければごまかせるかしら？　もうっ、恵くんのってすごく濃いから……」

環「ふふ、それじゃ、お先に♪　またあとで……ね♪」